

—
◇わき見のすすめ

「その一瞬、ちょっとのわき見が地獄行き」

わき見のすすめというテーマをいただいて一番はじめに
心にかんだことばです。

それはK町の高速道路の陸橋にいつの頃からか記され
て、車の運転には縁のない私も何度かその道を往復するう
ちに心にとどめられたものと思われまます。

ドライバーにとって「わき見」は「飲酒」と並んで「地
獄行き」の片道切符だといわれます。ですから、どんな理
由があるにせよ、私たちは、「わき見のすすめ」すなわち
地獄行きの片道切符販売の助け手としての役割を担うわけ

松隈玲子◇
—

にはいきません。

このように、人間の生活の中には、「わき見」をしては
ならないものがあります。しかし、「わき見を許される」
あるいは「わき見をすすめてもよいと思われる」ものもた
くさんあるように思います。

その例を子育てにとってみましよう。

最近の教育の風潮は、充実した幼児時代をすごして小学
生へというようにゆとりとゆたかさをもって下から上につ
み上げるのではなく、一流企業に入るならこの大学へその
ためにはこの高校へというように上から下へくりさがり、

まだ十分にレディネスのととのっていない子どもたちを手を伸ばしてすくい上げるといふ現状にあるといわれます。

したがってエスカレーターの一段目に足をかけた子どもたちは、わき見をするひまもなく、各階の所要所に配置された親や教師の目を意識しながら最上階へのほりつめる、短時間に無駄のない行程が準備され、そのプロセスにおける、子ども自身のわき見やより道を通して得られる楽しい経験や活動との出会いは素通りしてしまいます。

幼児教育はプロセスの教育であり、きめられた路線の上を、子どもたちをのせて、最も短時間に最終目標にむかってつばしる汽車であってはなりません。

こう考えながらも、私たちの日常をかえりみると、ことばや態度で「わき見をしないで」「ぐずぐずしないで」とせきたてる親と子の、保育者と子どものかかわりあいの多さに気がきます。

「ごままでおいで、ママにおいで」、這い這いをはじめたYちゃんのお母さんは、一生懸命に両手を広げたり、哺乳びんのミルクをふったりしてYちゃんに働きかけています。はじめは、よだれをたらしながら、顔一ぱいの口をあけてお母さんの所に這ってきたYちゃんも二度、三度と

「おいで、おいで」が重なる、目標物が欲求をそそる対象でなくなったのか、なかなかお母さんの呼びかけに応じようとしなくなり、そのうちに、途中で哺乳びん洗いの赤いブラシや、お姉ちゃんが置き忘れたゴムまりめざして方向転換をするようになりました。

「いやねえ、この子は、もう道草を覚えるんだから、わき見しちゃダメ、メエよ！」

お母さんはYちゃんの目にふれるものを片ばしから高い棚の上のせ「もうなんにもないない、さあママにおいで」をくり返しはじめました。単調な這い這い訓練にあきてむずかり出したYちゃんはどうとうお母さんにお尻をパチンとぶたれて泣き出してしまいました。

お母さんはがっかり、ため息をついてつぶやきました。「充分這わせてから立たせないといけないって先生がおっしゃったでしょ、だからわたし一生懸命やっているのに」

私は、Yちゃんのお母さんのなげきを笑うことができませんでした。

充分這わせるといふことは、人や物に対する赤ちゃん自身の興味や関心を育てること、興味のある人や物とのかか

わりをもちながら活動することと無関係であってはなりません。(勿論赤ちゃんに危険なもの、さわっては困るものを取りのぞいておくことは言うまでもないことですが)冷静に考えるところに思いが及ぶのですが、母親と子どもとの二者関係の中では、年齢やケースは異なっても、しばしばこれと同じように、短絡的に大人が設定した目標にむかってすすませようとしがちです。

「わき見」は子どもにとっても、おとなにとっても、時

☆わき見について

として必要なことではないでしょうか。

「わき見のすすめ」を私は、心理学でいう欲求不満からの逃避と同義ではなく、「思いつめ、考えあぐんで一つのことしか見えなくなっている心、動かなくなっているお互いの関係に気付き、見つめている対象からふと目をはなして他の世界を見ることによって、自分自身を変化させること」として考えたいと思います。

(西南女学院短期大学)

田 中 平 八 ☆

「わき見の勧め」を書くように求められた。ということ
は、私は、日頃わき見ばかりしているのだろうか。

一体、わき見人間とは、どのようなタイプを指すのだろうか。私なりに想像してみると、本来の仕事や勉強は適当に